
MOON-3 『WOLF MEET VAMPIRE』 < 7 >

みづき海斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

MOON - 3 『WOLF MEET VAMPIRE』 <7>

【Nコード】

N1174M

【作者名】

みづき海斗

【あらすじ】

同じ事務所の友人貴史が何者かによって殺された事を知った秀は、その足跡を辿るように夜の新宿へと足を踏み入れる。
貴史は『和人』を追っていたという。

MOONシリーズ第三段『WOLF MEET VAMPIRE』
の第7話です。

『WOLF MEET VAMPIRE』</>(前書き)

ぼつぼつ更新中です(ー¥)。。。。

『WOLF MEET VAMPIRE』 <7>

<7>

銀幕を思わせるイルミネーションが、ビルの群を包み始めていた。G・Wを間近に控えた都会の人々の表情は、今日が週初めの月曜日とはいえ、いつもより明るく見える。

AFTER FIVE.

人の波は、新宿駅を起点として放射線状に街中へ広がっていった。新宿の昼の住人が、夜の住人へとその居を明け渡す頃――

PM10:00.

秀は、新宿3丁目に足を踏み入れた。

セントラルの横道を、新宿通りとクロスするOIOIの方向に向かって行く。

新宿通りは、いつも通っている勝手知ったる通りだが、点々と夜の店が居並ぶこの通りは余り馴染みがなかった。

「ハ―イ、そこのお兄さん！遊ばない？」

韓国系と思われるミニスカートの女性が、陽に焼けた素足をむき出しにして、声をかけてくる。

「悪いね、先約があつてさ。また、今度ね。」

につこりと笑つて、愛想良く手を振る。

これで、5人目である。

「残念ね。先約は女？それとも男？」

「・・・男。」

ホールドアップを無言で演じる女性。

これも、5人目である。

「なんつー反応を示すんだがな、ここの姉ちゃんたちは。」

さっぱり意に解せず、という様子で秀は頭をかいた。

胸ポケットから最後の1本となったセブン・スターを取り出し、

口にくわえる。

その指先には、タバコと一緒に1枚のメモがはさまれていた。

”FESTA”。

紙には、さやかの子でそう書かれている。

貴史が突き止めた『和人』の手掛かりを知る店である。

赤い火を鼻先で灯し、

「FESTA・・・洒落た名前だねえ。」

秀がそう呟いた時。

6人目の女性が、彼に声をかけた。

「一人で寂しそうね、お兄さん。」

「いや、全然。」

肩越しに、右後ろへ視線を投げかけ秀は答えた。

「あら、ハンサムさんじゃない。こんな時間に、こんな場所でするなんて・・・あなた新宿中の女の子を泣かすために来たのかしら？」

見事な金髪のウェーブを腰元で揺らし、赤いワンピースの女性は妖艶に微笑んだ。

白い素足が、目に焼きつく。

「まさか。」

秀は肩をすくめ、「そんな罪作りなこと女王様を前にしやしないよ。店を探してるんだ、待ち合わせの。」

「あら・・・」

彼女も、やはり残念そうな視線で秀を見つめ、「その人、男？女？」

「一度、聞いてみたいな、その『男？それとも女？』っていう質問の意味。」

秀は、サングラスを軽くずらし、「何かの暗号？君で6人目だよ、その質問・・・それに答えると、パンドラの箱でも開かれるのかな？」

「ほほほ・・・面白いこと言うわね、あなた。気にいっちゃった。」

「彼女は秀に歩み寄り、その細い指先で秀の顎を軽く押し上げた。
「待ち合わせの場所って？何てお店？・・・その約束の相手から
あなたを奪ってみせるわ。」

「さーてね、君に奪えるかなあ。」

秀は和人の姿を脳裏に浮かべながら、正直に勝敗の結果を告げた。
「君も十二分に綺麗だけど。」

「新宿の人？相手の名は？白状しなさい。」

「OK・・・和人っていうんだ。君、知ってるかな。」
「！・・・」

一瞬、彼女のブラウンの両眼がその名前に反応した事を秀は見逃さなかった。

「・・・どうやら、知ってそうだね。レディ。」

「・・・知ってるも何も・・・」

彼女の瞳は、驚きから挑戦的な輝きへと変わっていった。「彼は、
この新宿まちの『帝王』よ・・・そして、私たちの・・・」

「？・・・私たちの・・・何？」

「・・・」

彼女は、無表情に瞳だけで微笑んだ。

「あなた、彼の知り合いなの。」

「え・・・。まあ、そんな感じ。」

心の中とは、正反対の台詞を秀は口にした。

そんな秀の様子に、女性は、

「彼、”FESTA”にはいないわ。私が彼の所に連れて行って
あげる。」

大京町のマンションなら・・・と、喉元まで出かったが、秀は、
「そりゃ、ラッキーだ。よろしく頼むよ。」

と、素直に彼女の”行為”に甘えた。

『WOLF MEET VAMPIRE』＜7＞（後書き）

（何故か敵役は女性が多い、海斗の小説です（いえ、偶然です（＝＝））

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1174m/>

MOON-3 『WOLF MEET VAMPIRE』 < 7 >

2011年1月16日00時20分発行